

生涯学習 この人に聞く その 16

子どもたちへのタグラグビー普及にとりくむ

「ラグビーのまち府中推進委員会」委員長 吉田 峰生さん



今年ラグビー・ワールドカップ 2019 日本大会の年。2つのトップ・チーム「東芝ブレイブルーパス」と「サントリーサンゴリアス」のホームタウン府中市では、「ラグビーの力を府中の力に！」を合言葉に、大会の成功と共に、子どもたちへのラグビーの普及や地域スポーツの振興にも取り組んでいます。その旗振り役のラグーマン・吉田さんを東芝に訪ね、最近府中の小学校で盛んになっている“タグラグビー”についてお話をうかがいました。

タグラグビーはどんなラグビーですか？

子どもたちにも、初心者にもラグビーというスポーツのすばらしさ、楽しさを体験してもらいたいと、約30年前、イギリスで考え出されました。5人対5人で対戦します。タックルやスクラムなどの体のぶつかり合い



を一切なくし、誰でも安全にプレイすることができます。ボールが楕円形であること、ゴールエリアにボールを抱えて走り込めばトライパスは後ろへだけなどのルールはラグビーと同じ。また走ってくる相手を止めるのはタックルで

はなく、選手が腰の左右に付けた”タグ”(带状の布)を取ることで止めます。”タグ”をとられたら、3歩以内にボールを味方にパスしないとはいけません。

ルールはむずかしいですか？

大変簡単です。鬼ごっこをする感覚で、子どもたちも直ぐに覚えられます。また、指導者もそんなに詳しく勉強しなくても教えられる。ボールを抱えて運ぶ、パスをするなどのスキルも大事ですが、体格差や性別の影響が少なく、みんなでやろうぜのチームワーク、協調性、声を出して仲間とコミュニケーションをとる能力の向上など教育的効果も優れているので、2011年より、小学校の学習指導要領解説書(体育)に例示されるようになりました。ただ、ラグビーを経験した者にとっては、やや物足りない、とっつきにくい面はあります。

府中でどのようにして広げましたか？

2009年でしたか、府中駅南口の商店街フォーリスを運営するフォルマ社長の大室容一さん(現府中観光協会会長)から、10周年記念のイベントを何かやりたいのだがとラグビー関係者に相談があり、それでは小学生のタグラグビー大会はどうかと提案しました。市内の各小学校にタグセット(ボール、ベルト、タグ)を配布し、先生方に協力をお願いして、なんとか第1回フォーリスカップを実施しました。地元の先生方と一緒にやるのが一番と考え、先生方への講習会も開いています。今年で12回目になります。熱心な先生も多く、府中市小学校22校中17校より57チームが参加してくれました。

吉田さんのラグビーとの出会いは？

府中で生まれ、三小、三中で学びました。生粋の府中っ子です。中学では水泳をやり、高校でラグビーを始め、大学、社会人(東芝)でプレイしました。

子どもがジュニアラグビーを習い始めたころから、東芝のジュニアクラブや府中市のラグビー協会にもかかわっています。長くお世話になったラグビーで、地域にご恩返しをしたいと思っています。

市民の皆さんへ

サントリーが支援する「サントリーカップ全国小学生タグラグビー選手権大会」が毎年開催されます。(今年度は14回目) 東京都の予選会も郷土の森サッカー場で開催されます。府中の小学生も大勢参加して、タグラグビーを楽しんで欲しいです。

2019ワールドカップ、7人制ラグビーが正式種目になる2020オリンピックには、府中からも日本代表選手が出場します。ぜひラグビーを見て、応援をお願いします。またワールドカップの開会式は味の素スタジアムで行われ、朝日町の練習場にはイングランド、フランスチームが来ます。市民の皆さんが世界各地からの選手、観客を温かくお迎えし、触れ合い交流する機会にしていだければと思います。

(記・奥野英城)



サントリーカップ府中予選会(郷土の森サッカー場)

インタビューを終えて：

吉田さんにお会いして、タグラグビーにかける熱い思いが言葉の端々から伝わってきました。子供たちのために、タグラグビー普及のために、一生懸命取り組まれている姿に感動しました。試合を見て元気に走り回る子供たちに明るい未来を感じます。これからも続けていってほしいと思います。(F.I)

